

ISC留学net

学習塾の学習塾による学習塾のための留学センター

ISC留学netは、全国の学習塾、特に地方都市にある地域に根差した学習塾と提携することで、ISCOO留学センター（OOは地域名）として、留学相談窓口を開設している。（2014年6月現在、42都道府県68拠点）

地方都市で、民間教育の重要な役割を果たす学習塾が、留学相談窓口として存在することは、生徒の進路としての高校留学や、大学留学といった本格的な留学の相談を、安心して、かつ気軽にすることができるようになった。

ISC留学netの本部でもある株式会社和田塾は、静岡県浜松市に本部を置く学習塾として、静岡県西部地域に10教室を展開している。

これまで、学習塾と留学とは同じ土俵で語られる事は少なかったが、どちらも子供たちの未来を左右するほどの、学習面・進路指導面で大きな役割を担っているという点では、共通性と整合性があると言ってもいいかもしれない。

ISC留学net代表の大場規之氏は「このISC留学netが浸透することで『留学のことは塾に聞け』という新たな常識が醸成され、世界を視野に入れた進路指導が当たり前になる事が願いであり、その実現によって、全国の若者のグローバル人材育成の一翼を担ってまいります」と語る。



アメリカに留学した高校生の通学風景。

月刊私塾界7月号

P42 特集1 新たな英語教育の兆し

2014年に入ってから、大学入試の英語試験に「読む・書く・聞く・話す」の4技能を測る外部試験の導入が検討されるなど、英語教育の在り方に関する議論が活発になってきている。

また、高等学校の英語の授業でもオールイングリッシュ（A E）でおこなわれるようになり、コミュニケーション能力を高めることを目的とした英語授業が主流となろうとしている。

公教育がグローバル人材育成に舵を切るなかで、塾にできることはなにか？

ここ数年で大きく成長してきているB to Cのオンライン英会話や語学留学サービスがそのヒントとなるかもしれない。

そこで今号では、フィリピン語学留学のクチコミ情報サイト「SchoolWith（スクールウィズ）」を運営する太田英基代表に、フィリピン英語留学の現状と今後をうかがうとともに、オンライン英会話や語学留学の主なサービスプロバイダーにメールインタビューを実施した。

私塾界

Monthly Shijyukukai No. 399

www.shijyukukai.jp

7

JULY 2014

特集1

特集2

新たな英語教育の兆し

株式会社公開企業塾

2014年3月期決算を読む